

伝統が支える明日の町づくり

香取市佐原歴史的景観形成地区



忠敬橋から小野川上流

この地区からはこれまでに個別の建築について数回の受賞があったが、今年度は町並み景観をつくる建築群としての応募である。かつて佐原は利根川水運による商業都市を繁栄させた。その面影を残すこの地区の景観保存を目的に、地元住民が平成3年にNPOを立ちあげて活動を始め、その熱意が次第に実り、国から重要伝統的建造物群保存地区の指定も受け、これまでに修理修景150件余の実績がようやく建築群となって伝統的町並みを再生させた。

軒高や屋根勾配を揃える。瓦屋根の復活。ガラス戸を連格子と組み合わせる。スチールサツシュや新建材も控えめに。再生手法の好例を手本として、町並み再生は軌道に乗ったようだ。街の景観は営まれる人々の暮らしの姿を写す。関東では川越に見るように、街の生業に変化があれば、伝統的町並み保存の行方は観光資源への転化が必然となるから、

商業都市から観光都市への変化を促されることになる。

佐原は都心から日帰りできる距離も幸いして、休日に集まる環境客は次第に増え続ける昨今である。しかし、観光目的の集客が進むと、要求される都市機能は変化する。車道や駐車場、休憩や飲食施設、案内サインやトイレなどの公共施設の整備、土産品開発も急がれるだろう。

水郷佐原は、広域観光を視座にいよいよ次段階への正念場を迎えている。

(野口 瑠璃)



香取街道沿いの町並み



樋橋と伊能忠敬旧宅

(撮影／高橋賢一)